江差町立南が丘小学校　　研究部通信

南小たば風通信　２０１９

令和２年３月１１日　第３３号

研究の反省と次年度の方向性について

先日は、次年度に向けてのご意見ありがとうございました。話し合われたことをまとめ、次年度の方向性について研究部で方向性を考えましたのでご確認よろしくお願いします。

《グループ討議》

低学年

- 初任段階が多いということもあり、模擬授業スタイルを決めて取り組んだ方がいい。書き上がっている板書で進めるよりは、発問や実際の板書などで進めたらいい。
- 子どもが教えて考えさせる授業の型に慣れていることと、今までの蓄積があることを考えると、教えて考えさせる授業でいいのではないか。
- 方向性がバラバラにならないように、教えて考えさせる授業をベースに単元を進める。合わない部分などを問題解決型で進める。
- 領域を絞るとやりにくくなるので、絞らない。

中学年

- 板書交流は、いろいろ変わることもあるし、教えてもらいたいこともあるので、今の形でいいのでは。ただ、授業の視点に関わる部分や授業者の悩んでいるところなど、一部模擬授業でやってはどうか。
- 一つのスタイルとして教えて考えさせる授業を進めていくのはいい。研究の型は教えて考えさせる授業で進める。やっていきながら単元や時間などで合うものと合わないものをみていく。
- 問題解決の型など、いろいろな方法について交流するのもいいのでは。ただし、あれもこれも手を出しすぎて中途半端にならないように気をつけていく必要がある。

高学年

- 単元計画については、一定の効果はあった。子どもが流れを理解することで、予習する子もいた。ただ、付けさせたい力の計画をうまく考えることができなかった。さらに、数字以外の様子の見取り方は課題。
- 算数で行うことについてはよい。教えて考えさせる授業は、やりやすさや時間配分はよい。問題解決は、パターンがまだ曖昧なので、しっかりとパターンを考えてから取り組む。（子どもに目標をもたせてからの問題解決型など）
- 来年度も習熟度でできるのなら、教えて考えさせる授業でしっかり基礎基本を教えることや発展内容を問題解決型で教えていくこともいいのでは。低位の子の引き上げはターゲットを決めて。
- 板書交流は、全体で指導案確認をしてから模擬授業で行うとよい。

・たば風通信の他校の研究会の報告について、自校の仮説と照らし合わせるといい。
・公開研後の研究内容について柱をもって研究を続けていく必要がある。

《教頭先生・校長先生より》
・子どもたちの課題をしっかり把握して取り組むことが大切。
・評定１をあげることは頑張っているが、上位の子の伸びも意識して取り組む。
・教科やスタイルを何でやるにしても、スタイル決めて指導力向上を目指すことが大切。
・子どもにやらせっぱなしではなく、先生の指導や助言（意図）から子どもに気づかせる。
・個人研究ではない。
・見通しをもって取り組む。
・「課題を見つけて取り組む」は、何でもいいわけではない。しっかりと意図をもって考えさせる。

☆次年度に向けて☆

（１）研究の内容・・・算数
・領域は絞らない。
・研究の授業スタイルは「教えて考えさせる授業」を中心にして行う。
　※「教えて考えさせる授業」をベースに、単元や時間、教える内容などで、合うもの合わないものを探り、問題解決型の授業を取り入れながら進めていく。
　※教えるべきことをしっかり教え、児童が「わかる授業」を目指す。
・校内研究であることを意識し、授業力の向上を目指す研究とする。
　※低位の児童を引き上げるだけでなく、上位の児童の引き上げも考える。

（２）板書交流について
・紙面中心の指導案検討ではなく、模擬授業形式で進めていく。ただし、時間や場面などを区切るなど、時間の見通しをもって行うようにしたい。
　※初任段階の先生方がよりよい研修となるようにする。
　※研修日の回数や時間を守り、ただ長引くなどの無駄がないような研修とする。